

自：2013年4月1日
至：2014年3月31日



NCAJ
National Camping Association of Japan

事業報告書 2013



公益社団法人日本キャンプ協会

2013年度事業総括

2013年度は、竜巻や豪雪といった自然の猛威、あるいは富士山のユネスコ世界文化遺産への登録、伊勢神宮と出雲大社の遷宮などが大きなニュースとなり、この国の自然や文化について考えることの多い一年でした。キャンプは自然の中での素朴な生活が基盤となるため、その地域の自然環境や文化の影響を強く受けます。こうしたニュースに触れ、自らの暮らす社会の自然や文化を反映し、未来につながるキャンプをどのように組み立てていくのかと考える機会が、多く与えられたように思います。

日本キャンプ協会としては、いくつもの新しい取り組みに着手した一年でした。

まず、キャンプを通じた社会貢献の実現につながる、タイプの異なる学びの場を設けました。「キャンプ指導者のためのリベラルアーツ」は、目の前の課題に向き合うための基礎体力となる学びを意図した、キャンプアカデミーの新しいシリーズです。さらに、参加者自身が学びの形を作り上げていく「Café de CAMP」、キャンプディレクター有資格者がキャンプについてより深く学ぶ「ディレクター・ゼミナール」といった、新しい研修事業も始めました。

いずれも小規模なスタートでしたが、発展の可能性が強く感じられるものばかりです。これらの事業は引き続き実施し、内容を「CAMPING」や「キャンプ研究」を通じて共有したり、さまざまな地域に展開したりすることで、より意義あるものにしていきたいと考えています。

また、日本キャンプ協会にとっての活動の最前線である、都道府県キャンプ協会やその地域的集まりであるブロックの行う広域的、公益的の事業をサポートするものとして、「地域事業支援プログラム」を始めました。この年度は7事業が対象となり、一般の方々にキャンプに対する理解を深めてもらったり、都道府県キャンプ協会間の連携を深めたりする事業が行われました。

指導者養成については、制度改良の準備を進めました。これまでプログラムディレクターとマネジメントディレクターの二段階となっていたキャンプディレクター2級を新たなキャンプディレクター2級に一本化することを軸に、変更内容を検討しました。新しい指導者養成制度は、2014年度から運用開始しますが、これによりステップアップの機会が増え、より実践的に活躍するキャンプディレクターが生まれることが期待されます。

第18回目となる「Camp Meeting in Japan」では、従来の口頭発表、ポスター発表に加え、「キャンプのあれこれ発表」というワークショップ型発表の枠を設けました。ひとつのテーマをじっくり伝えられる、学べると好評で、2014年度にも継続します。これは日本キャンプ協会設立50周年となる2016年度に予定している「第6回アジア・オセアニア・キャンプ会議」「第21回全国キャンプ大会」といった事業をより有意義な情報交換の場とするための基礎となるでしょう。

これらの取り組みが具体的な成果を生むにはもう少しの時間と、継続的な取り組みが必要です。その意味では、めざましい変化を遂げたとは言えませんが、中長期的な成果を生むための改善を着実に積み重ねた一年であったと考えています。

2013年度も多くの方々の力に支えられ、さまざまな事業を行えたことを感謝申し上げます。

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業

さまざまな社会的課題に対応するキャンプが幅広く行われるよう、先行事例の収集や先駆的内容を含むキャンプを実施するとともに、そこから得られた情報の共有を図る事業を行った。また、キャンプの普及を図る事業が全国で行われるよう、各地での事業をバックアップする取り組みも進めた。

(1) グリーフキャンプの実施

本会と公益財団法人日本 YMCA 同盟、社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団との共同プロジェクトとして、東日本大震災で大切な人をなくした子どもたち(朝日新聞厚生文化事業団の実施する「こども応援金」申し込み者)を主な対象に参加を募り、3月にキャンプを実施した。

また、国内外の先行事例や資料からグリーフキャンプについて学ぶとともに、これまでの取り組みをまとめた報告書を作成した。

① 被災児童を対象としたキャンプの実施 (日本 YMCA 同盟・朝日新聞厚生文化事業団との共同事業)

・ SKY CAMP あさぎり 2014 春 (第 4 回グリーフキャンプ)

期 日：3月29日(土)～4月1日(火)

会 場：富士山 YMCA グローバル・エコ・ヴィレッジ(静岡県富士宮市)

参加者：10歳から16歳の男女16人

主 催：日本キャンプ協会 日本 YMCA 同盟 朝日新聞厚生文化事業団

協 力：(NPO)子どもグリーフサポートステーション 静岡県立朝霧野外活動センター



「SKY CAMP あさぎり 2014 春」は、朝日新聞厚生文化事業団に寄せられた寄附金を用いて実施しました。

②キャンプの質を高めるための取り組み

・SKY CAMPのつどい

大切な人やものをなくしたことによって生じるグリーフ（悲嘆）との折り合いの付け方は、人によって大きく異なる。長い時間がかかるケースも多く、キャンプを通じたサポートにおいても、キャンプ期間だけの一過性のものにならないことが望ましい。そこで、キャンパーが集う場を設けるとともに、日常を支える保護者の話を聞く機会を設けた。



期 日：12月7日(土)～12月8日(日)

会 場：子どもグリーフサポートステーション(宮城県仙台市)

参加者：SKY CAMP キャンパー及び保護者 12人 スタッフ8人

③先行事例の研究

北米を中心に広く行われているグリーフキャンプについて学ぶため、キャンプやキャンプ運営に関する会議に参加したほか、資料収集も進めた。

・El Tesoro de la Vida 視察

2012年度に引き続き、Camp Fire USA First Texas Council が実施するグリーフキャンプ El Tesoro de la Vida に参加し、キャンプの視察を行った。この年度は特にセラピーセッション(同性同世代のグループで行うグリーフワークのためのグループ活動)に注目して視察を行った。



期 日：7月27日(土)～8月3日(土)

訪問先：Camp El Tesoro(米国テキサス州)

参加者：6人

・The Moyer Foundation 2013 National Bereavement Camp Conference 派遣

北米41か所で各地域の病院等に併設されたグリーフサポートセンター、キャンプ場と共同して、2泊3日の週末型のグリーフキャンプを行っている The Moyer Foundation(モイヤー財団)の実施する会議に職員を派遣した。

期 日：10月10日(木)～10月11日(土)

訪問先：Hyatt at The Bellevue (米国ペンシルベニア州)

派遣数：1人

・資料収集と文献調査

グリーフキャンプの先行事例ならびに子どもを対象としたグリーフケアに関する資料文献の収集と調査を行った。

④グリーフキャンプの普及を図るための取り組み

グリーフキャンプの2年間の活動記録をまとめた報告書を作成したほか、CAMPING などを通じてグリーフキャンプに関する情報提供を行った。

・報告書『Gift for the Next 100 Years』発行

グリーフキャンプ取り組みの経緯、先行事例報告、キャンプ報告などをまとめた報告書を700冊作成し配布したほか、日本キャンプ協会 WEB サイトで公開した。

発行日：6月30日(日)

判型：A4 80ページ

URL：www.camping.or.jp/201306griefcamp.pdf

内 容

第1章 経緯とこれまでのキャンプ(2011.3.11～2013.3.30)

第2章 グリーフキャンプの役割～生き延びる力～

第3章 グリーフキャンプのこれから～Gift for the Next 100 Years～

資料集



・CAMPING 連載「Gift for the Next 100 Years」

グリーフキャンプ事業の報告や関連する事項をまとめた連載をCAMPINGに掲載した。

号数	テーマ
152	キャンプアカデミー&ACA National Conference in Dallas
153	SKY CAMP in よしま
154	グリーフキャンプ報告書 2011.3.11～2013.3.30
155	El Tesoro de la Vida 2013 Camp Fire USA, TX の Grief Camp 視察
156	2013 National Bereavement Camp Conference
157	アイルランド Barretstown

(2) 地域活動支援プログラム（広域的もしくは公益性の高い事業の実施支援）

社会的課題に応えるキャンプが広く行われるためには、地域に密着した活動が各地で行われ、広くキャンプに対する認知を高めることが欠かせない。そのような活動の普及を進めるため、地域ブロックを中心に行われた7つの事業について支援を行った。

団体名	日程	事業名
北海道・東北ブロック	11月9日(土) ～10日(日)	スキルアップセミナー
福島県キャンプ協会	9月14日(土) ～15日(日)	災害に備える アウトドア体験
愛知県キャンプ協会 (中部・北陸ブロック)	10月13日(日)	ユニバーサルキャンプフェスタ ～美浜の海と緑に親しむ1日～
滋賀県キャンプ協会	1月12日(日)	キャンプ活動の力 ～そのとき！あなたにできること～
近畿ブロック	3月2日(日)	関西野外活動ミーティング 2014
広島県キャンプ協会 (中国・四国ブロック)	2013年7月～ 2014年3月	アウトドアセミナー
九州・沖縄ブロック	11月16日(土) ～17日(日)	第2回九州キャンプ大会



左上:スキルアップセミナー

右上:アウトドアセミナー

左下:ユニバーサルキャンプフェスタ

(3) キャンプアカデミーの実施

キャンプとキャンプの周辺領域に関わることがらを学ぶ機会として、「キャンプ指導者のためのリベラルアーツ」と題したキャンプアカデミーを開始した。

また、「人を育てるキャンプ」に携わる5団体(日本キャンプ協会・日本YMCA同盟・東京YWCA・ボーイスカウト日本連盟・ガールスカウト日本連盟)が実施する「出会いと体験の森へ」事業については、第3期としてフォーラムを実施した。

① キャンプアカデミー「キャンプ指導者のためのリベラルアーツ 2013」

「基礎的な教養」を意味する「リベラルアーツ」という言葉を冠したキャンプアカデミーをシリーズで実施し、「Special Needs Camp」「ジェンダー」について考えた。本事業は他団体との連携を意図し、公益財団法人東京YWCAとの共催事業として実施した。

第1回「Special Needs Camp の意義」

期 日：2月1日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

参加者：26人

第2回「ジェンダーと子どもの心」

期 日：4月12日(土) ※2月15日(土)実施予定だったが雪のため順延

会 場：東京YWCA会館（東京都千代田区）

参加者：19人

② 出会いと体験の森へ 第3期

第3期は、キャンプが子どもの成長に与える影響と社会的な役割を考えるフォーラムを実施した。3団体の事例報告、作家の佐川光晴さんとの対談、参加者による懇談で構成され、活発な意見交換が行われた。 ※この年度の事務局は公益財団法人東京YWCAが担当

期 日：2月23日(日)

テーマ：家、学校、そして第三の場～今こそほしい出会いと体験！

会 場：東京YWCA会館（東京都千代田区）

参加者：61人

報告書は実行委員会 WEB サイトで公開予定 <http://deai.camping.or.jp>



キャンプアカデミー「Special Needs Camp の意義」



出会いと体験の森へフォーラム

(4) キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEB やメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努めた。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者等の相談に応じた。

① 会報誌「CAMPING」の発行

キャンプに関する情報やキャンプの現場で役立つさまざまなスキル、本会の事業内容等を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した(各号約 15,000 部)。経験の少ない指導者にも役立つよう、わかりやすい紙面作りを心がけた編集を行った。

号数	特集	号数	特集
152	センス・オブ・ワンダー	155	自己肯定感
153	キャンプの気象と安全	156	キャンプの音
154	キャンプの時間	157	キャンプと IT



② WEB サイトを通じた情報発信

本会や各都道府県協会、関連団体の実施する事業の告知や報告、本会の団体情報などの各種情報を WEB サイト (<http://www.camping.or.jp>) を通じて提供した。

③ メールマガジン「CAMPING News」の発行

会員等の活動への参加機会を増やすことを目的に、BUC 事業を中心とする講習会やイベントの情報、助成金情報などを提供するメールマガジンを発行した。

発行回数：16 回（年末年始を除く 3 週毎の金曜日発行）

送信数：約 2,300 通（発行時により変動・別途 PDF 版を WEB サイトで公開）

④ キャンプインフォメーションセンターの運営

キャンプに関する相談窓口として、電話や電子メールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、マスコミ等の取材対応を行った。

(5) 都道府県キャンプ協会の広報活動の支援

都道府県キャンプ協会が会員等への情報提供を支援するためのサービスを提供した。

① 会報同封サービス

各都道府県協会が会員に対する情報発信を行いやすくなるように、都道府県協会の会報等を「CAMPING」に同封して発送するサービスを提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会の数 26 のべ発送点数 48,684

② メールアドレス及び WEB サーバーの提供

各都道府県協会にメールアドレスと WEB サーバーを提供し、インターネットを利用した情報提供、情報交換を容易に行えるよう支援した。

(6) 国外の情報の収集と提供

キャンプに関連する情報の収集を行うとともに、国際キャンプ連盟メンバーを中心に情報交換を深め、適宜、CAMPING やメールマガジン、Monthly Report 等を通じて情報提供を行った。

① 第 5 回アジア・オセアニア・キャンプ会議 in シドニー参加ツアーの実施

期 日：10月18日(金)～10月22日(火) ※ツアー期間 10月17日(木)～10月23日(水)

会 場：Novotel Sydney Olympic Park (濠洲ニューサウスウェールズ州)

参加数：18人 (うちツアー参加者9人)

② アメリカキャンプ協会年次大会派遣

期 日：2月5日(水)～2月8日(土)

会 場：Hilton Orlando (米国フロリダ州)

派遣数：1人



第 5 回アジア・オセアニア・キャンプ会議

(7) 安全啓発キャンペーンの実施

野外での安全について広く一般の方々にも考えていただく機会とするため、安全標語の募集を行った。この年から「キャンプの安全いろはかるたをつくろう！」として、「い」から「を」までの 12 文字を頭文字とした標語を募集した。日本キャンプ協会設立 50 周年となる 2016 年には、キャンプの安全いろはかるたが完成する。

応募点数：2,309 点

最優秀作品：「いつだって 準備が 支える キャンプの笑顔」 山中 勝美さん

(8) 自然体験活動の場の提供と施設の運営【静岡県立朝霧野外活動センター】

7年目をとる朝霧野外活動センターの管理・運営は、指定管理第2期の最終年度となる2014年度に向け、主催事業や提供している野外活動プログラムの点検と見直しをいっそう進めた。特に、冬期の主力プログラムであるアイススケートについては、利用団体の指導者に対するスケートの基礎レッスンやプログラム展開方法についての研修を開催し、より充実した研修活動の実施を支援した。また、主催事業においてはフィギュアスケートの専門家による基礎レッスンを受けることが出来る機会と、自由に滑走することが出来る施設開放の機会をバランスよく配置し、子どもだけでなく家族全員でフィギュアスケートに親しめる機会を多く設け、普及と施設活用の促進を図った。ソチ・オリンピックの効果もあり、大雪による事業中止等の影響を受けながらも、成果を上げることが出来た。

また、本年度は指定管理者となって以来最多のキャンプ場利用者数を記録した。

外部評価委員会からも、引き続き「青少年教育施設としての役割を十分に果たしている」との評価を受けた。

①受け入れ事業の支援

静岡県内を中心に幅広い地域の学校・青少年団体・青少年指導者団体・企業等の利用受け入れを行うとともに、その利用を効果的にサポートできるよう、実地踏査や打合せを通じた利用団体との十分なコミュニケーションの確保に努めた。

また、利用者支援のためには職員のスキル向上が不可欠であるので、職員研修を充実させるとともに、救急法（Medic First Aid®）講習会の開催や静岡県青少年教育施設協議会合同職員研修会への参加等を通じて、スタッフひとりひとりのスキルアップを図った。

②新規プログラム開発・導入

世界遺産となった富士山を生かすプログラムとして、富士山の自然や歴史を知る館内レクリエーション「あさぎり巻狩り物語」、富士山の四季折々の姿をイメージしたクラフト「富士山ミニキャンドル」、朝霧高原の樹木を活用したクラフト「オリジナルスプーン&フォークづくり」などを新たに整備したほか、富士山がよく見えるハイキングコースやサイクリングコースを設定した。

また、利用者が気軽に取り組むことが出来るナビゲーションスポーツのプログラムを充実させ、敷地内のポイントオリエンテーリングコースの設定やラビリンスオリエンテーリングの整備を行った。

さらに、提供している各種野外活動プログラムにおいて、利用者のニーズに沿った変更を加えるとともに、「野外活動における安全マニュアル」を更新し、利用団体や参加者が自らの安全を作り出すことの重要性を感じられるプログラムになるよう運営方法の見直しを行った。

③地域との協働

朝霧野外活動センターに隣接する富士丘地区をはじめ、近隣地域や施設との協力関係をさらに深め、センターが実施する各種事業への理解と協力を仰いだ。さらに、地域の行事にも積極的に参加し、相互理解を図るとともに、地域の活性化に寄与することに努めた。11月に実施した朝霧カーニバルでは、地元の青少年団体が新たに出展者として参加し、地域との協力関係に新しい広がりを見ることが出来た。

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月7日(日)	小学校5年生～中学校3年生	124名
	8月4日(日) ～8月12日(月)		55名

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加数
野外活動プログラム実習	4月12日(金) ～4月13日(土)	利用団体の担当者・指導者	119名
	11月1日(金) ～11月2日(土)		17名
長期キャンプ指導者 養成講習会	6月15日(土) ～6月16日(日)	専門学校生 短期大学生 大学生	12名
	7月13日(土) ～7月14日(日)		
	8月4日(日) ～8月12日(月)		
	10月19日(土) ～10月20日(日)		
野外教育指導者養成講習会	2月7日(金) ～2月9日(日)	野外教育に興味のある人、 青少年団体の指導者、教育関係者	17名

施設開放事業

事業名	日程	対象	参加数
朝霧カーニバル	11月3日(日)	一般	3,764名
スケートフェスティバル in あさぎり	11月3日(日)・3月31日(月)	家族・小グループ	436名
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日	家族・小グループ	2,419名
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日	家族・小グループ	2,566名



「朝霧高原サマー～キャンプ～つながろう富士山～」
富士山大沢崩れからの日の出

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加数
ちょっといい春感じませんか	4月20日(土)～4月21日(日)	家族・小グループ	115名
朝霧高原トレイルランニングレース	9月7日(土)～9月8日(日)	一般	664名
すてきな秋をあなたに	10月5日(土)～10月6日(日)	家族・小グループ	131名
オリエンテーリング in 朝霧	11月23日(土)～11月24日(日)	家族・小グループ	365名
スケートキャンプ	12月13日(金)～12月14日(土)	家族・小グループ	52名
	1月17日(金)～1月18日(土)		48名
	2月21日(金)～2月22日(土)		53名
	3月7日(金)～3月8日(土)		54名
223(ふじさん)ウォーキング	2月23日(日)	家族・小グループ	162名

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加数
ホッとキャンプ	3月4日(火) ～3月7日(金)	引きこもりがちな青少年	5名

その他受託事業

事業名	日程	対象	参加数
静岡子ども体験フェスティバル	11月17日(日)	一般	400名

本館棟利用者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2011	1,692	4,217	5,178	6,083	4,470	5,674	4,302	2,628	2,649	2,624	2,190	3,630	45,337
2012	3,864	5,660	5,322	6,071	5,553	5,807	4,312	5,941	2,399	2,230	2,057	3,840	53,056
2013	2,894	5,538	5,118	6,081	4,855	5,212	5,194	5,921	3,273	2,223	1,883	3,988	52,180
前年度比	-970	-122	-204	10	-698	-595	882	-20	874	-7	*-174	148	-860

キャンプ場利用者数の推移

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2011	84	2,081	1,961	2,280	3,935	4,359	956	176	529	485	173	893	17,912
2012	296	3,026	3,083	2,934	3,561	3,409	1,399	957	519	573	173	555	20,503
2013	207	3,095	3,407	3,460	3,755	4,301	1,239	1,361	534	548	0	724	22,631
前年度比	-89	69	324	526	194	892	-160	386	15	-25	*-173	169	2,128

*2週連続の大雪により、主催事業の中止・利用団体の利用キャンセルがあったため



「スケートキャンプ」
みんなでひょうたん滑走に挑戦中

平成 25 年(2013)度 静岡県立朝霧野外活動センター指定管理者外部評価委員会評価結果

総合評価 **A** [9段階評価 A⁺, A, A⁻, B⁺, B, B⁻, C⁺, C, C⁻]

評価項目		評価ポイント		
		25年度	24年度	23年度
評価の総括		A	A	A
項目別評価	①少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A	A	A ⁻
	②少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A
	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A	A	A ⁻
	④学校利用への適切な対応	A ⁻	A ⁻	B ⁺
	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A ⁻	A	A

(参考)

9段階評価ポイント記号の意味					
A	十分満足できる	B	おおむね満足できる	C	努力を要する
* 心象としてABCに対して上回るか下回るかにより、必要に応じて+-の付加記号を付ける。					

(9) 都道府県キャンプ協会へのキャンプ用品・用具の配布

安全で楽しいキャンプを普及させるため、(財)日本宝くじ協会より助成を受けて全国の都道府県キャンプ協会に対してテントの配布を行った。これらのテントは都道府県協会が主催する各種講習会、指導者研修、キャンプなどで幅広く活用されるとともに、都道府県協会を通じて、加盟団体などが行うイベント等にも貸し出しされ、有意義に使用された。

配布件数 38 都道府県キャンプ協会 3種 61張



よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業

この年度は従来の制度下での養成を着実に進めると同時に、制度改良作業を行い、2014年度から実施する新しい指導者養成制度をまとめた。また、有資格者のブラッシュアップをいっそう進めるため、BUC事業の承認・実施に加え、キャンプ指導をより深く学ぶディレクター・ゼミナールを開始した。

(1) 指導者養成講習会の実施

キャンプインストラクター養成講習会（課程認定A・B・C団体による実施）

都道府県キャンプ協会(A団体)による養成数	605
課程認定校・社会教育団体等(B・C団体)による養成数	2,202
合計	2,807

- ・ 3,100人の養成目標に対し2,807人の養成が行われ、達成率90.5%であった。
 - ・ 昨年の3,007人と比較し、9.45%の減であった。
- ※ 計画未達は一部団体の養成数減少と手続きが2014年度にずれ込んだ団体があったことによる。

キャンプディレクター2級(プログラムディレクター)養成講習会（A団体による実施）

主催県	日程	受講数	会場
広島	9月14日(土) ～9月16日(月・祝)	6	広島県立もみのき森林公園
東京	11月12日(火) ～11月14日(木)	6	埼玉県立 名栗げんきプラザ
東京	11月22日(金) ～11月24日(日)	12	国立オリンピック記念青少年総合センター
福岡	2月1日(土) ～2月3日(月)	11	北九州市立玄海青年の家
大阪	2月7日(金) ～2月9日(日)	4	吉野宮滝野外学校

キャンプディレクター2級(マネジメントディレクター)養成講習会（B団体による実施）

団体名	受講数
千葉大学教育学部	2
北翔大学	1

キャンプディレクター1級養成講習会

日程	受講数	会場
11月1日(金)～11月4日(月・祝)	9	国立中央青少年交流の家

キャンプディレクター1級検定会

日程	受検数	会場
1月25日(土)～11月26日(日)	10	国立オリンピック記念青少年総合センター

(2) 指導者の審査・認定及び更新

資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプ インストラクター		キャンプ ディレクター2級		キャンプ ディレクター1級	
	受験者数	合格者数	申請者数	合格者数	申請者数	合格者数
4月25日			11	11		
6月5日			2	2		
9月19日			1	1	1	1
11月19日			8	8		
1月13日			11	11		
2月18日					4	4
3月15日			13	13	3	3
課程認定 団体養成分	2,807	2,807				
合計	2,807	2,807	46	46	8	8

指導者資格の更新

キャンプ インストラクター	キャンプ ディレクター2級	キャンプ ディレクター1級	合計
4,828	1,776	1,154	7,758

課程認定団体の審査・認定

審査会日程	新規課程認定団体名
6月5日	C団体 一般財団法人 大阪市青少年活動協会（大阪府）
9月19日	B団体 学校法人ルネス学園 甲賀健康医療専門学校（滋賀県）

2013年度課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
46	122	6

(3) ディレクター・ゼミナールの実施

キャンプ指導者の質を一層高めるため、少人数、短期集中型の講座を行った。

日 程：1月23日(木)・1月30日(木)・2月27日(木) [全3回]

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

テーマ：グループワーク

参加者：のべ13人

(4) 課程認定団体研修会の実施

① 課程認定団体(A 団体)向け研修会

日 程 : 5 月 26 日(日)

会 場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者 : 74 人

※第 1 回都道府県キャンプ協会指導者研修会の中で実施

② 課程認定団体(B・C 団体)向け研修会

日 程 : 6 月 5 日(水)

会 場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者 : 22 団体 26 人

③ 課程認定団体(A 団体)向け研修会

日 程 : 3 月 16 日(日)

会 場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

※第 2 回都道府県キャンプ協会指導者研修会の中で実施

(5) 指導者養成のためのテキストの発行

指導者養成に用いるテキスト「キャンプ指導者入門」「キャンプディレクター必携」の販売管理を行った。

(6) 指導者養成制度の改良

指導者養成制度については、よりよい養成が行われるよう継続的に改良を続けてきたが、現行の制度では踏むべき段階が多い割に十分な受講機会がないなど、多少複雑になりすぎている部分があった。そこで、質を保ちながらもステップアップしやすい制度に改良すべく、タスクチームを設けて検討を行った。

新しい制度では、PD(プログラムディレクター)・MD(マネジメントディレクター)に分かれていたキャンプディレクター 2 級を新しいキャンプディレクター 2 級に一本化するほか、受講要件や講習日程を変更し、ステップアップを目指しやすいものとした。また、現在 PD・MD 資格保有者にはキャンプディレクター 2 級への移行措置を設けることとした。この制度変更は 2014 年度から実行され、2016 年度に移行を完了する。

(7) 都道府県キャンプ協会指導者研修会の実施

キャンプ普及の直接的な担い手である都道府県キャンプ協会の活動を支援する目的で研修会を実施した。

第1回 期 日：5月26日(日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者：74人

第2回 期 日：3月16日(日)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者：76人

(8) 各都道府県キャンプ協会の実施するBUC事業の承認・支援

スキルアップと交流の機会として本会及び都道府県協会が実施する事業のうち、所定の条件を満たすものをBUC(Brush Up & Communication)事業として認定し、必要に応じて事業実施のための支援を行った。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	実施事業協会数 [※]
2013	132	1,548	45
2012	134	1,534	42
2011	111	1,477	40

※実施協会数には日本キャンプ協会を含む

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業

キャンプの質を高め、普及を進めるためには、新たな取り組みについて知ったり、専門的な研究結果に学んだりすることもまた重要である。新しい情報を蓄積、整理し、わかりやすく社会に提供するとともに、会員同士が情報を持ち寄り、学びあう機会を新たに設け、重層的な情報提供が行われるように努めた。

(1) Camp Meeting in Japan 2013 ～第17回日本キャンプ会議～の実施

国内外のキャンプの実践報告や研究発表を通じて、指導者同士で有意義なキャンプ情報の共有が図れるよう交流の場として開催した。この年度は口頭発表に加え、「キャンプのあれこれ発表」と銘打ってワークショップ型の発表枠を設けた。

期 日：5月25日(土)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

発表者：13人

参加者：82人

内 容

[座談会]「キャンプの力 ～キャンプのこれまでとこれから～」

[口頭発表] 11題

社員教育研修としての野外活動プログラムの可能性 ～Outdoor Training Programを導入したTS Camp～（尾崎智哉）
参加目的に着目した組織キャンプ参加者の特徴 ～白山市アドベンチャーキャンプの実践から～（東雅宏）
多文化での野外教育プログラムから考えたこと（高野孝子）
冒険的自然体験キャンプ「私たちの4日間」（奥田博）
幼稚園・保育園との連携～あかぎの森のようちえん実践報告～（櫛島隼人）
岡山県の中山間地域における自然体験活動の実践報告（湯本篤志）
グリーンケアキャンプに参加して～被災地の子どもたちとともに～（三浦義孝）
被災地域の児童を対象としたキャンプ実践報告と今後の課題（清水啓一）
静岡県における不登校キャンプの取り組みについて（太田正義）
国立青少年教育施設の取り組み－新しい公共型運営について ～国立赤城青少年交流の家の取り組みから～（高瀬宏樹）
自然体験活動におけるマダニ対策について考える ～広島県での取り組み(報告)～（林健児郎）

[キャンプのあれこれ発表] 2題

ウィルダネス教育協会指導者資格認定コースの報告と今後の展望（西島大祐）
キャンプで使える「手話」表現（針ヶ谷雅子）

(2) 定期刊行物「キャンプ研究」の発行

キャンプの実践報告やキャンプに関する研究報告を発表する場として「キャンプ研究 第17巻」を発行した。キャンプディレクター資格保有者に配布するとともに、PDF版をWEBで公開し、多くの人が読めるようにした。

発行日：3月10日

発行部数：3,500部（別途PDF版をWEBサイトで公開）

※PDF版 www.camping.or.jp/JJCS172014.pdf



研究論文	雪上キャンプにおけるイグルー内の環境に関する調査研究	春日規克・三原幹生 加藤玲香
実践報告	南会津アドベンチャーキャンプの実践と地域連携の可能性	佐藤冬果・渡邊仁 向後佑香
	父子キャンプ（パパチルキャンプ）の実践	石井勝
	「災害に備える」野外力をきたえよう～アウトドア体験キャンプの実践報告と今後の課題	松前雅明

(3) Café de CAMP の実施

若手キャンプ指導者を中心に、講師を囲んで意見交換をしたり、アクティビティ体験をしたり、相互に事例発表等を行ったりする、交流と学び合いの場「Café de CAMP」を新たに設けた。

プログラム策定においては参加者の要望を取り入れながら、毎回改良を加え、徐々に参加者の枠を広げることができた。



（全8回・うち1回は荒天中止／会場はいずれも国立オリンピック記念青少年総合センター）

日程	テーマ	参加者
6月15日(日)	みんなのキャンプに会ってみよう	5
7月5日(土)	みんなのキャンプを聞いちゃいます！／☑イスブレイク	10
9月7日(日)	カフェ × ソト × キカク	9
10月25日(土)	(荒天中止：秋のキッズフェスタブース運営)	-
11月30日(日)	カフェ × アキ × ダッチオープン	11
12月14日(日)	カフェ × フユ × アクティビティ	5
1月18日(土)	あらためて考える	11
2月11日(火)	世界のキャンプをのぞいてみよう！	15

法人事務

本会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

(1) 諸会議の開催

会議名	回数	日程・会場等																					
総会	2	5月25日・3月15日																					
理事会	2	5月25日・5月15日																					
監査	1	5月22日																					
執行理事会	8	4月25日・6月5日・9月10日・9月19日・11月19日・12月12日 1月13日・2月18日																					
ブロック会議	8	<table border="0"> <tr> <td>全ブロック</td> <td>5月25日・3月16日</td> <td>東京 (NYC)</td> </tr> <tr> <td>近畿ブロック</td> <td>9月28日</td> <td>京都府京都市</td> </tr> <tr> <td>中部・北陸ブロック</td> <td>10月12日</td> <td>愛知県美浜町</td> </tr> <tr> <td>北海道・東北ブロック</td> <td>10月26日</td> <td>宮城県川崎町</td> </tr> <tr> <td>関東ブロック</td> <td>11月10日</td> <td>千葉県市川市</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄ブロック</td> <td>11月16日</td> <td>鹿児島県出水市</td> </tr> <tr> <td>中国・四国ブロック</td> <td>11月30日</td> <td>徳島県阿南市</td> </tr> </table>	全ブロック	5月25日・3月16日	東京 (NYC)	近畿ブロック	9月28日	京都府京都市	中部・北陸ブロック	10月12日	愛知県美浜町	北海道・東北ブロック	10月26日	宮城県川崎町	関東ブロック	11月10日	千葉県市川市	九州・沖縄ブロック	11月16日	鹿児島県出水市	中国・四国ブロック	11月30日	徳島県阿南市
全ブロック	5月25日・3月16日	東京 (NYC)																					
近畿ブロック	9月28日	京都府京都市																					
中部・北陸ブロック	10月12日	愛知県美浜町																					
北海道・東北ブロック	10月26日	宮城県川崎町																					
関東ブロック	11月10日	千葉県市川市																					
九州・沖縄ブロック	11月16日	鹿児島県出水市																					
中国・四国ブロック	11月30日	徳島県阿南市																					

運営委員会・タスクチームミーティング

会議名	回数	日程・会場等
総務委員会	8	4月25日・6月5日・9月10日・9月19日・11月19日 12月12日・1月13日・2月18日 (執行理事会と同時開催)
組織整備委員会	2	4月26日・1月13日
CAMPING 編集タスク	5	4月15日・6月17日・7月8日・10月7日 (東京YWCA会館) 12月9日・3月7日
指導者養成制度タスク	2	7月13日・10月4日
Camp Meeting タスク	2	5月8日・10月8日
50周年事業タスク	1	9月19日

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
事務局会議	-	随時
出会いと体験の森へ 実行委員会	5	4月4日・9月25日・12月10日・2月19日・3月20日
グリーンフキャンプ 組織委員会	1	1月15日
グリーンフキャンプ 実行委員会	4	10月29日・12月12日・2月18日・3月17日

※ 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
所長会	9	4月5日・5月21日・7月1日・9月6日・10月18日 11月15日・12月12日・2月5日・3月5日
補佐会	1	9月26日
主席会	4	4月10日・6月27日・10月21日・3月10日
県庁合同会議	1	4月5日
安全対策委員会	2	6月18日・3月18日
外部評価委員会	2	7月19日・2月20日(評価伝達式)
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	1	11月28日-29日
静青協合同職員研修会	1	1月8日-9日
地域懇談会	1	11月10日
食堂定期協議会	2	5月1日・12月15日

(2) Monthly Report の発行

理事、監事、運営委員、都道府県キャンプ協会事務局及びその運営に関わる方を対象に、本会の運営状況をはじめキャンプに関連する情報を提供することを目的に Monthly Report を月1回発行した。

(3) 各種団体等への協力・共催・後援

事業協力

日程	事業名	主催
6月1日	春のキッズフェスタ	体験の風をおこそう運動推進委員会

その他、協力・後援、協賛

団体名	事業名	種別
岩手県キャンプ協会	第40回キャンプインストラクター養成講習会	共催
岩手県キャンプ協会	平成25年度親子キャンプ	共催
秋田県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
宮城県キャンプ協会	八つのチャレンジ「はっちゃれキャンプ」	後援
宮城県キャンプ協会	スノチャレキャンプ2014	後援
福島県キャンプ協会	災害に備えるアウトドア体験	後援
福島県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援

団体名	事業名	種別
(NPO)東京都キャンプ協会	平成 25 年度「東京キャンプフェスティバル」	後援
石川県キャンプ協会	第 19 回キャンプインストラクター養成講習会	後援
石川県キャンプ協会	わくわく夢キャンプ (夏編)	後援
石川県キャンプ協会	How To アウトドアクッキング	後援
石川県キャンプ協会	冬の野宿	後援
石川県キャンプ協会	わくわく夢キャンプ (冬編)	後援
大阪府キャンプ協会	関西野外活動ミーティング 2014	後援
鹿児島県キャンプ協会	第 2 回九州キャンプ大会 in かごしま	後援
(社福)朝日新聞厚生文化事業団	ピア・キャンプ 2013	後援
(公財)関西テレビ青少年育成事業団	2013 年度リスクマネジメント・セミナー	後援
(NPO)環太平洋学生キャンプ	第 29 回環太平洋学生キャンプ	後援
(公財)修養団	S Y D ボランティア奨励賞 (第 8 回)	後援
(公財)修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	幸せの種まきキャンペーン(出張講座/課外授業)	後援
(公財)修養団	子ども自然体験キャンプ (全国 4 会場)	後援
(公財)修養団	東日本大震災被災者支援	後援
(公財)修養団	青少年仮設住宅訪問(炊き出し)ボランティア	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・アクション in 福島	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フェスティバル	後援
(公財)日本教育科学研究所	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
(公財)日本サイクリング協会	2013 東京シティサイクリング	後援
(公財)日本サイクリング協会	2013 Mt. FUJI エコサイクリング	後援
(公財)日本レクリエーション協会	第 67 回全国レクリエーション大会	協力
宮城県復興支援センター	国際交流イングリッシュキャンプ	後援
(公財)横浜市体育協会	平成 25 年度アウトドアリーダー講座	後援

(4) 日常法人業務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。

会員管理/会費収納/事業方針・計画・予算の管理/日常経理事務/収益事業の運営管理/
助成金事務/人事管理/諸規定(程)の整備/他団体との渉外窓口

本報告書内の法人名・各人の役職等は、各事業実施当時のものです。

CAMPING AWARD 2013 受賞者

新村 尚 氏

栃木県キャンプ協会理事

1988年11月の栃木県キャンプ協会発足時から理事として活躍され、氏の類まれな野外活動の知識と経験は、協会の活動と運営を強力に牽引してきました。協会の柱となる事業のひとつである、青少年を対象とした「自然生活体験キャンプ」の生みの親であり、通算23回を数えた現在も、中枢で活動を支えています。また、「冬のチャレンジキャンプ」などの公益的事業の多くも、氏なくしては生まれませんでした。

キャンプ活動を担う指導者の養成・育成にも情熱を注がれ、栃木県キャンプ協会の理論的・実践的支柱として大きく貢献されています。
(推薦団体: 栃木県キャンプ協会)

河田 友和 氏

群馬県キャンプ協会前理事

長年にわたってボーイスカウト活動に携わり、群馬県のスカウト活動の重要な牽引者として走り続けてこられました。その活躍の場は、太田地区協議会や群馬県連盟の役員に限らず、日本連盟のリーダートレーナーとしても、指導者の養成・育成に力を注がれました。

また、BBS(Big Brothers and Sisters Movement)活動にも携わり、恵まれない環境で育った青少年や道を誤った青少年に惜しみない協力と援護を行い、自立支援活動に長きにわたって尽力されました。

群馬県キャンプ協会においても、再結成以来理事として活躍、協会にとってなくてはならない大黒柱のような存在でしたが、昨年8月、残念ながら逝去されました。最後まで、再び青空の下で自然体験活に携わることを夢みておられました。
(推薦団体: 群馬県キャンプ協会)

堀口 芳嗣 氏

埼玉県キャンプ協会副会長

埼玉県キャンプ協会の設立時より、初代会長の野澤巖氏をサポートし、協会の立ち上げに大きく貢献されました。小学校教員としてのキャリアも長く、さらに神川少年自然の家など、自然体験活動の現場経験も大変豊富で、子どもの野外活動の普及と発展に、30年以上にわたって多大な功績を上げておられます。

特に、埼玉県内有数の自然体験フィールドである秩父地域における経験と知識には特筆すべきものがあり、今後も埼玉県の恵まれた自然環境を十分に生かしたキャンプ活動の普及と発展にさらに大きな貢献が期待されます。
(推薦団体: NPO 法人埼玉県キャンプ協会)

高橋 登志子 氏

中野区キャンプ協会会長

東京都の中でも特に長い歴史をもつ中野区キャンプ・レクリエーション協会の設立当初より、会長として地域に根ざした野外青少年育成活動に尽力してこられました。キャンプインストラクター養成も設立当時から継続的に実施し、多数のキャンプ指導者を輩出されています。また、東京都青少年委員(中野区)を長く務め、現在も中野区青少年育成桃園地区委員会副委員長などとして、地域活動に大きな力を発揮されています。

東京都キャンプ協会においても、役員候補者推薦委員会委員などを歴任するとともに、多くの事業に積極的に参加され、キャンプ活動および野外青少年育成活動における貢献は非常に大きいと言えます。

(推薦団体: NPO 法人東京都キャンプ協会)

野崎 英雄 氏

岐阜県キャンプ協会専務理事

学生時代よりキャンプ愛好家として自然を愛し、キャンプや自然の素晴らしさ、楽しさを学校教育や少年自然の家での派遣主事といった立場で、地域子ども会に体験させ、伝える活動に長きにわたって力を入れてこられました。

岐阜県キャンプ協会の活動においては、設立以来、地域・教育現場におけるキャンプの活動の普及に努めてこられました。また、二代目事務局長を経て、現在は専務理事(理事長)を務め、スタッフや会員のまとめ役として大きな力を発揮しておられます。

(推薦団体:岐阜県キャンプ協会)

阿部 泰広 氏

愛知県キャンプ協会常任理事

ボーイスカウト活動や大学時代のキャンプカウンセラー経験を生かし、多様なキャンプ指導者団体の交流・連携の先駆けとして、若手指導者育成の中心的役割を担い続けておられます。

愛知県キャンプ協会においては、キャンプ生活技術とキャンプ道具の使用と安全管理に関する高い知識と技術を生かし、指導者養成に大きく貢献してこられました。さらに、事業委員長として子どもを対象とした夏と冬のキャンプ、通年型自然体験教室「こどもクラブ」の運営責任者を長く務め、事業運営においても要となってこられました。また、1985年以降は理事及び常任理事として、協会運営を支えておられます。

(推薦団体:愛知県キャンプ協会)

公益財団法人 大阪YWCA

1918年に創設された大阪YWCAは、今年95周年を迎える伝統と実績を持つ公益法人(1925年財団法人認可、2011年公益財団法人認定)です。女性の自立と成長のサポート、青少年育成、ボランティア育成や日本語教育、社会福祉活動、平和や環境問題、国際理解と国際協力、人権擁護などのための幅広い活動を展開されていますが、その手段として、キャンプや野外活動のプログラムを早くから取り入れ、組織キャンプの実践を通して、青少年の健全育成等さまざまな成果を上げておられます。

大阪府キャンプ協会においては、発足当時より理事の役割を担い、協会及びキャンプ活動の発展充実に尽力してこられました。

(推薦団体:大阪府キャンプ協会)

一般財団法人 野外活動協会(OAA)

1966年に設立された野外活動協会(OAA)は、職域、地域の青少年育成、指導者養成や組織開発を担う団体です。青少年を対象に山登り、ハイキング、キャンプなど、多様なプログラムを展開されているほか、社会人、生活人育成とその指導者の養成のための職域、地域で開催される研修会や講演会への講師派遣も行っておられます。

運営する研修施設「OAAはりまハイツ」は、キャンプインストラクター養成講習会、総会等の活動の場として定着しているほか、現在、兵庫県キャンプ協会事務局はOAA事務局に置かれており、長年にわたって協会活動を強力に支えておられます。

(推薦団体:兵庫県キャンプ協会)

中畑 高義 氏

奈良県キャンプ協会理事

大学時代から天理教の青少年育成に携わり、高校生対象の冒険キャンプのキャンプカウンセラーとして、全国の高校生を対象に「生きる喜び」を伝えてこられました。また、天理高校青少年指導者育成クラブ顧問を24年間にわたって務め、野外活動の楽しさをメンバーと共に子どもたちに伝える活動を続けておられます。さらに、天理教青少年野外活動センタースタッフとして、各種指導書の編集などに携わってこられました。

指導者養成においては奈良県キャンプ協会とも協働し、大きな役割を果たしておられます。さらに2007年からは、理事として奈良県キャンプ協会の活動に大きく寄与されています。(推薦団体:奈良県キャンプ協会)

福田 みよゑ 氏

島根県キャンプ協会事務局長

1988年のキャンプ指導者養成講習会参加をきっかけに、国立公園吾妻山での教育キャンプでスタッフとして活動を始められました。1994年の全国レクリエーション大会ではキャンプ部門の実行委員となり、その経験から企画・運営することの楽しさに魅了され、世界的に有名になった坪田愛華さんの遺作「地球の秘密」にヒントを得て、キャンプにおける環境教育に積極的に取り組んでおられます。それ以外にも地域の青少年育成のための教育キャンプで指導的役割を果たしており、島根県における女性キャンプ指導者の拡充に大きく貢献されました。

島根県キャンプ協会においては事務局長として、指導者養成やBUC事業の推進に力を発揮されています。(推薦団体:島根県キャンプ協会)

西村 清巳 氏

広島県キャンプ協会会長

1995年11月の広島県キャンプ協会設立においては、準備段階から重要な役割を担い、理事に就任。2006年に副会長、2008年には会長に就任し、現在に至るまで長年にわたり広島県のキャンプの中核としてキャンプの振興と発展に努めてこられました。

時代の変化に沿ったキャンプ活動の展開や、キャンプの社会的認知と指導者の質の向上に力を注がれ、広島県キャンプ協会の盤石な土台づくりに大きく貢献されています。また、地元大学の実施する子どもキャンプ教室にも長年かかわり、長期キャンプを通じた青少年の育成にも努めてこられました。

現在も、自然保護やライフスタイルの変化に対応する新たなキャンプあり方を提案し、引き続き先頭に立って広島県のキャンプ活動を牽引されています。(推薦団体:広島県キャンプ協会)

横山 喜一郎 氏

香川県キャンプ協会副会長

1977年から1981年、県教育委員会スポーツ課体育主事としてキャンプ指導を担当、各種指導者講習会においてキャンプの理論と技術を指導し、県下のキャンプ活動の普及・発展に貢献されました。また、同時期に香川県キャンプ協会の事務局も担当し、指導者の組織づくりに努めてこられました。また、長く広報担当役員としても活躍、県協会広報誌の発行に尽力してこられました。

1993年には副会長に就任されましたが、引き続き協会事業にはスタッフとしても積極的にかかわり、指導者としての範を後輩に示しておられます。さらに、2011年には高松支部会長に就任し、参加者のニーズに応じた事業を企画・運営、その手腕を発揮しておられます。(推薦団体:香川県キャンプ協会)

花田 拓二 氏

福岡県キャンプ協会理事

北九州市の職員として 1970 年代に始まる少年の船の運営や 10 泊無人島キャンプの実践指導に携わるほか、市委託キャンプ場の管理・運営の委員として親子キャンプの指導にあたるなど、福岡県のキャンプ普及に努められました。その後、全国でも目新しかった青少年施設の指定管理制度のパイオニア所長として、活動メニューの充実やキャンプ・野外活動を中心とする施設ボランティアの育成などに手腕を発揮されました。

同時に、北九州市キャンプ協会の設立時から理事として地域のキャンプ活動を支え、2007 年からは福岡県キャンプ協会の理事に就任されました。県協会では調査研究委員長を務め、福岡県におけるキャンプ協会と行政との連携を先導し、協会の発展と充実に大きく寄与されています。

(推薦団体:福岡県キャンプ協会)

永吉 宏英 氏

日本キャンプ協会顧問

1996 年、日本キャンプ協会国際交流委員会専門委員に就任、2000 年に行われた第 5 回国際キャンプ会議では、実行委員として大いに手腕を発揮されました。その後も、複数年にわたる専門委員を経て、2008 年からは理事、2010 年には副会長に就任し、長年にわたり日本キャンプ協会の発展に大きな力を与えてくださいました。2014 年には顧問に就任し、引き続き協会を支えてくださっています。

現在も大阪体育大学学長として後進の指導に邁進、専門分野である「スポーツ政策」「生涯スポーツ」「野外教育」「高齢者スポーツ」を通して、日本の野外活動・生涯スポーツの発展、振興に尽力されています。

(推薦団体:公益社団法人日本キャンプ協会)



3 月 15 日 CAMPING AWARD 2013 贈呈式

公益社団法人日本キャンプ協会 2012・2013 年度 役員

名誉会長	酒井 哲雄	頌栄保育学院学院長
顧問	芥藤 保夫	元・城西大学教授
顧問	富岡 幸生	元・(一財)日本健康開発財団専任講師
顧問	野間口 英敏	東海大学名誉教授
顧問	長谷川 純三	(一社)日本オートキャンプ協会会長
顧問	野澤 巖	元・埼玉大学教授
顧問	永吉 宏英	大阪体育大学学長
代表理事 会 長	石田 易司	桃山学院大学教授
業務執行理事		
副 会 長	鳥井 信吾	サントリーホールディングス(株)代表取締役副社長
副 会 長	星野 敏男	明治大学教授
専務理事	金山 竜也	(公社)日本キャンプ協会事務局長
常務理事	神崎 清一	全国 YMCA ウェルネス(野外)担当者会担当総主事
常務理事	吉田 大郎	静岡県立朝霧野外活動センター所長
理 事	岡 智子	(公社)ガールスカウト日本連盟副会長
	郭 麗月	かく・にしかわ診療所医師・心斎橋心理療法センター代表
	木村 公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟事務局長
	佐藤 初雄	(NPO)国際自然大学校代表理事
	高野 孝子	(NPO)エコプラス代表理事
	高見 彰	大阪国際大学教授
	外山 真理	(公財)東京 YWCA 業務執行理事・青少年育成事業部統括責任者
	平野 吉直	信州大学教授
	村山 昌俊	新潟県キャンプ協会(北海道・東北)
	篠塚 博道	千葉県キャンプ協会会長(関東)
	舟橋 弘	愛知県キャンプ協会会長(中部・北陸)
	錦織 一郎	大阪府キャンプ協会会長(近畿)
	大天 嘉行	岡山県キャンプ協会会長(中・四国)
	福満 博隆	鹿児島県キャンプ協会会長(九州・沖縄)
監 事	片岡 敬一	(公財)日本レクリエーション協会総務部長
	林 寿夫	(株)野外計画代表取締役
	村松 真哉	(公財)ハーモニィセンター 事務局長

公益社団法人日本キャンプ協会 2012・2013 年度 運営委員

公1事業	浅野 修	(公財)仙台観光コンベンション協会職員
	大浦 秀樹	(公財)ボーイスカウト日本連盟教育部課長
	久保田 康雄	国立阿蘇青少年交流の家所長
	澤田 祥子	(公財)東京 YWCA 社会福祉事業部統括代理
	翠尾 由美	(公財)児童育成協会こどもの城主任指導員
	林 健児郎	(NPO)自然体験活動推進センター代表
	福田 年之	(社福)朝日新聞厚生文化事業団事業部長
	太田 恒義	常葉学園大学非常勤講師
	鶴川 高司	有限会社掌代表取締役
	針ヶ谷 雅子	明治大学兼任講師
	太田 正義	(NPO)子どもの体験活動サポートセンター理事長
	高橋 伸	国際基督教大学保健体育科講師
	佐々木 豊志	くりこま高原自然学校代表
	平田 裕一	至学館大学教授
	師岡 文男	上智大学教授
公2事業	遠藤 知里	常葉学園短期大学講師
	時安 和行	至学館大学准教授
	嶋崎 博嗣	東洋大学教授
	吉松 梓	駿河台大学助教
	土方 圭	明治大学法学部兼任講師
	池畑 亜由美	順天堂大学マルチサポート事業プロジェクトコーディネーター
	今井 正裕	(一財)大阪府青少年活動財団 吉野宮滝野外学校部長
	片岡 麻里	(公社)ガールスカウト日本連盟事務局次長
	粥川 道子	北翔大学教授
	鈴木 由美	女子美術大学非常勤講師
	富山 浩三	大阪体育大学教授
	中村 正雄	大東文化大学スポーツ・健康科学部教授
	野口 和行	慶應義塾大学准教授
	西島 大祐	鎌倉女子短期大学部講師
公3事業	甲斐 知彦	関西学院大学人間福祉学部教授
	小森 伸一	東京学芸大学准教授
	多田 聡	明治大学准教授
	永吉 英記	国土館大学講師
	布目 靖則	中央大学教授
	星野 太郎	(公財)東京 YMCA 野外教育センター事業部長
	渡邊 仁	筑波大学助教
	青木 康太朗	北翔大学講師
	月橋 春美	宇都宮共和大学准教授

特別事業（グリーンキャンプのうち、朝日新聞厚生文化事業団・日本YMCA同盟と行う共同事業分）

石田 易司	(公社)日本キャンプ協会会長
神崎 清一	全国YMCA ウェルネス(野外)担当者会担当総主事
大井屋 健治	(社福)朝日新聞厚生文化事業団事務局長
吉田 大郎	(公社)日本キャンプ協会常務理事
山根 一毅	(公財)日本YMCA 同盟協力部門国際担当主任主事
福田 年之	(社福)朝日新聞厚生文化事業団事業部長
星野 敏男	(公社)日本キャンプ協会副会長
太田 正義	常葉大学講師
坂本 昭裕	筑波大学教授
長谷川 孝	(一社)宮城県キャンプ協会会長

法人事務	神谷 稔	税理士法人 T's 会計税理士
	逸見 博幸	秋田県キャンプ協会理事長
	藤枝 隆	(NPO)東京都キャンプ協会事務局長
	藤井 三弥子	愛知県キャンプ協会理事長
	清水 勲夫	兵庫県キャンプ協会事務局長
	近藤 剛	鳥取県キャンプ協会会長
	工藤 福成	大分県キャンプ協会理事長

※運営委員の肩書きは就任時のもの

事務局スタッフ（2014年3月31日現在）


事務局長	金山 竜也	(全体統括・公2事業・法人事務)
事務局次長	秋山 千草	(法人事務)
主 幹	戸室 勇児	(公3事業)
主 事	吉野 宏美	(公1事業)
主 事	前田 将太	(公2事業)
主 事	五月女 真弓	(公1事業)

静岡県立朝霧野外活動センタースタッフ（2014年3月31日現在）

所 長	吉田 大郎	指 導 職	小西 岳勝
副 所 長	四條 忠男	指 導 職	小西 和希
コーディネーター	太田 正義	指 導 職	保科 哲也
事業課長	櫻井 良樹	指 導 職	大崎 健太
指 導 職	向島 克明	指 導 職	立林 雅貴

Gift for the Next 100 Years

公益社団法人日本キャンプ協会
www.camping.or.jp



SKY CAMP あさぎり
2014.3.29 - 4.1